



ふじみ野市立西原小学校だより

かがやき

令和5年11月2日発行

第10号

児童数217名

<http://www.fujimino.ed.jp/nisi/>

にしはらきらきら日記 更新中

学校教育目標	かしこく (知)	<めざす学校像> ひとみ かがやく あったかな西原小
	なかよく (徳)	
	げんきよく (体)	

埼玉県学力学習状況調査について

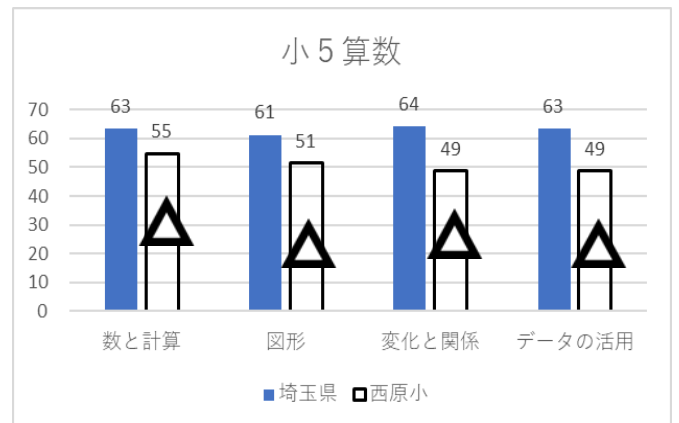
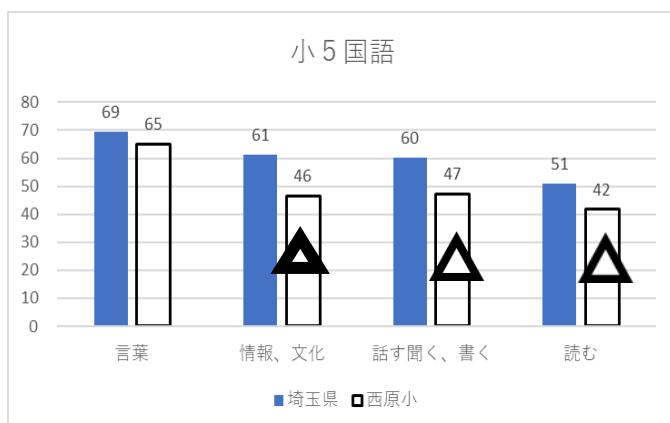
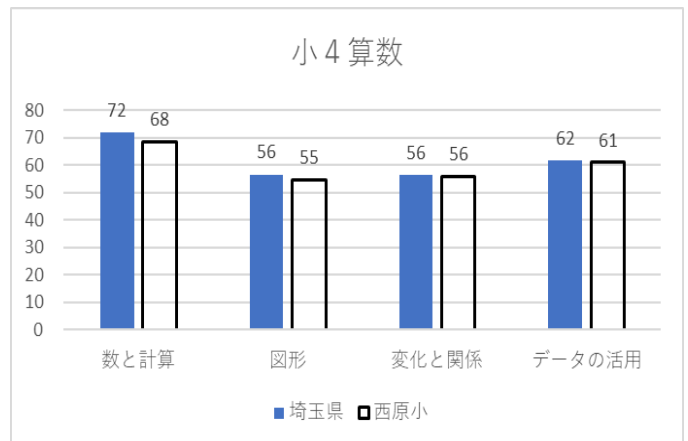
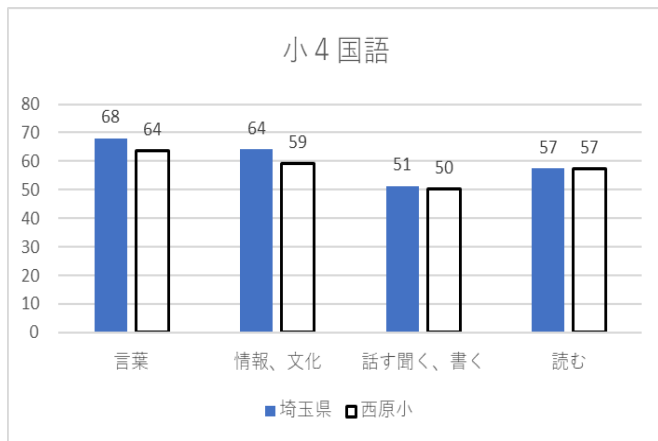
令和5年5月11日実施

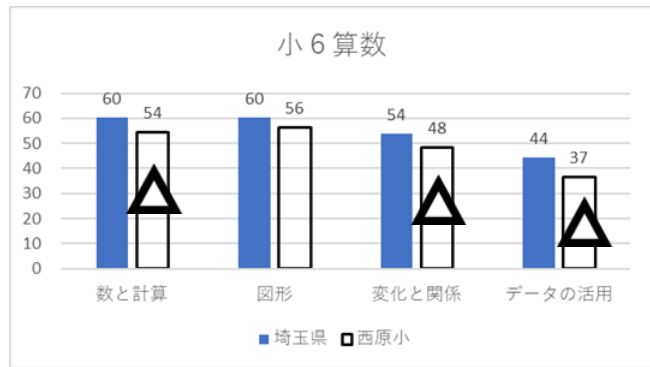
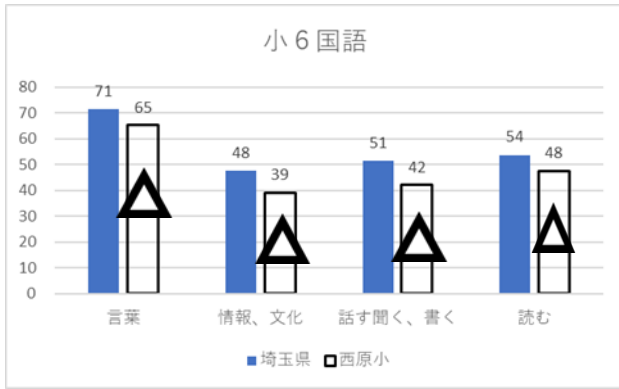
埼玉県学力学習状況調査は、小学校4年生から中学校3年生までの児童生徒を対象に実施されます。児童の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進することが目的で行われる埼玉県独自のものです。毎年の経年変化をみることで、児童一人一人の伸びの把握をすることができます。各自の個票は既に返却済みです。お子さんの伸びを見ていただくとともに、次年度へ向けて学習に向かう姿勢や生活態度についてご家庭と連携していきたいと考えています。

1 教科に関する調査 平均正答率:埼玉県 西原小

国語、算数の各領域の平均正答率を県と比較してみると、国語では、小4では「言葉」「情報、文化」がやや県より下回っているが、他の領域は県と同レベルの正答率です。県を大きく下回っている領域は小4では「情報、文化」「話す、聞く」小6でも「情報、文化」「話す、聞く」です。算数では、小4では、「数と計算」領域は県よりやや下回っているが、他の領域は県と同程度です。県より大きく下回っている領域は小5では「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」小6は「数と計算」「変化と関係」「データの活用」です。

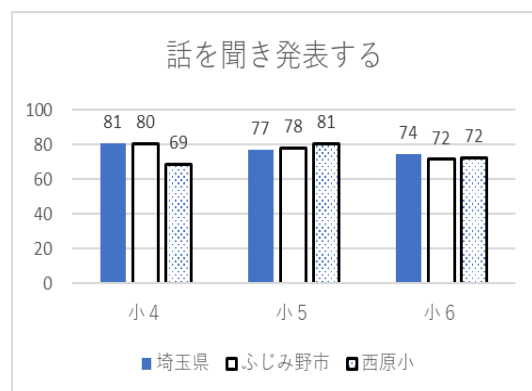
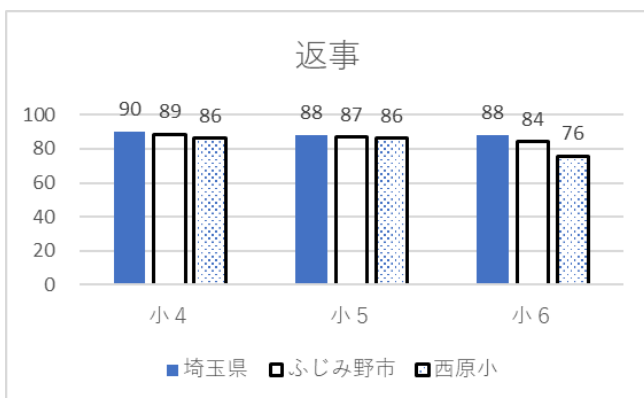
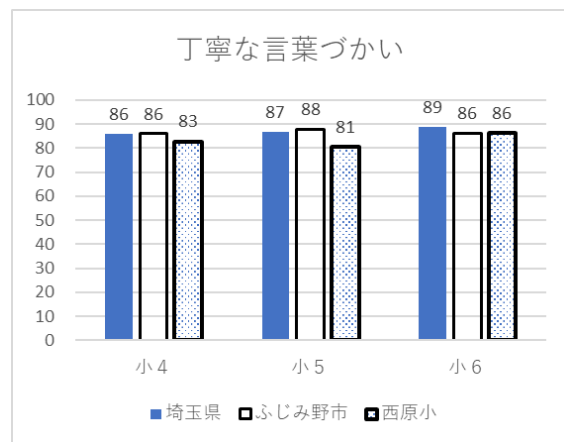
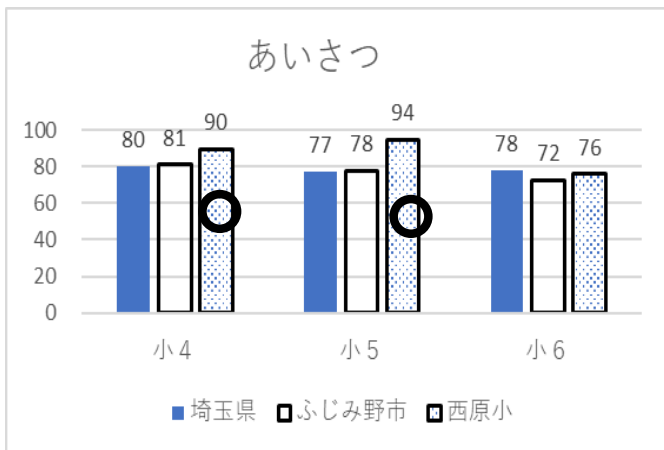
国語を中心に全ての教科について、「話す聞く、書く」力を育てるために、「子供たちがたくさん発言するようにすること」「グループやペア活動を充実させる」など言語活動を充実させる必要があります。





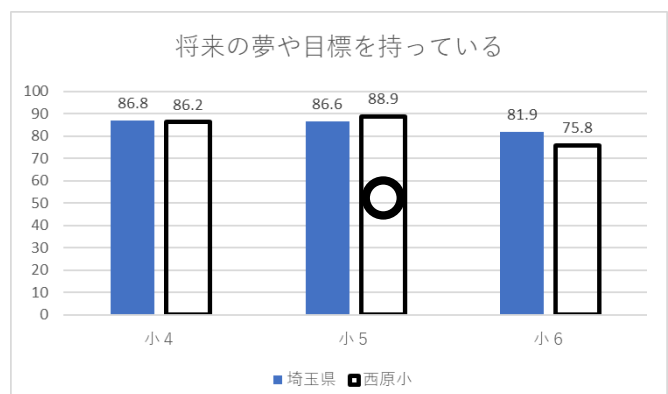
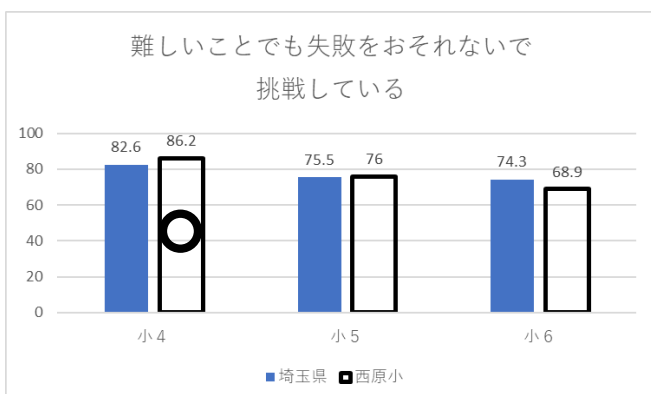
2 児童への質問紙調査結果「規律ある態度達成目標」

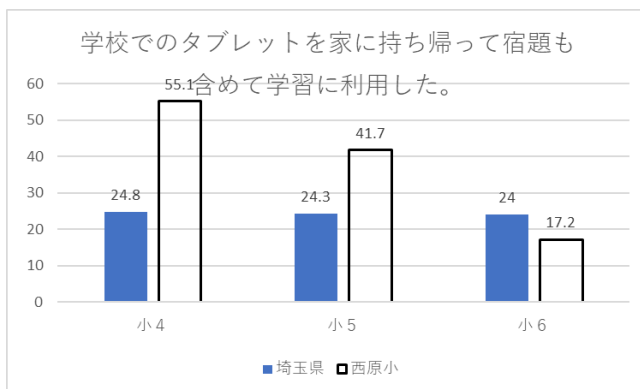
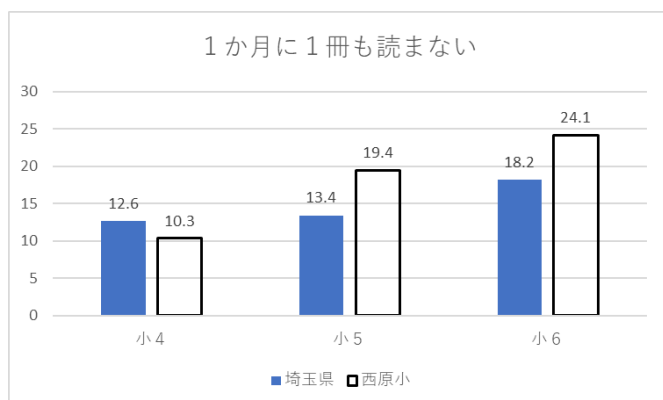
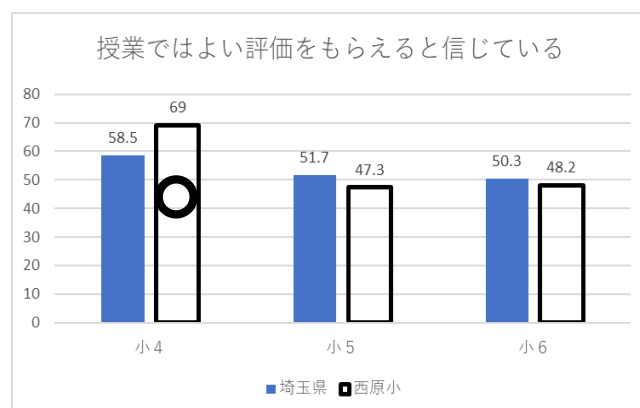
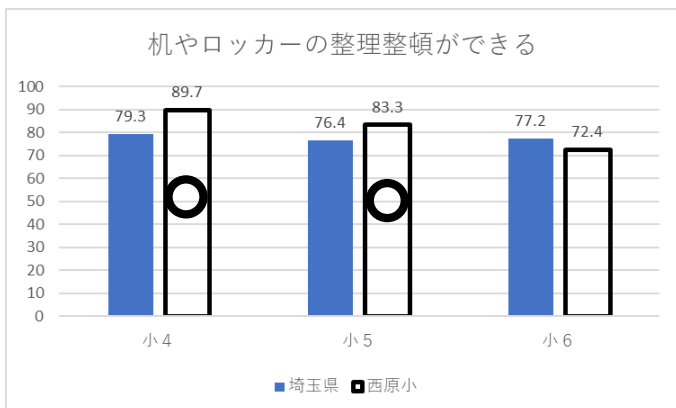
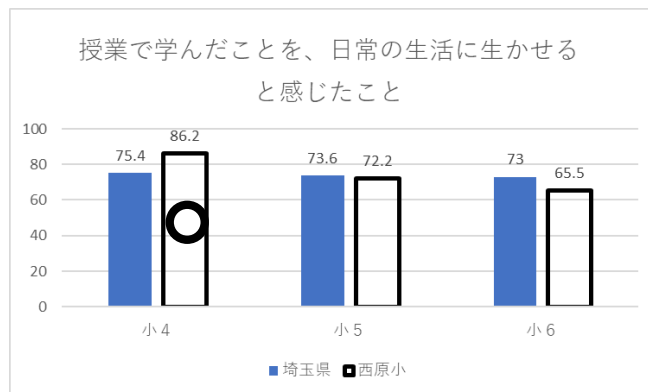
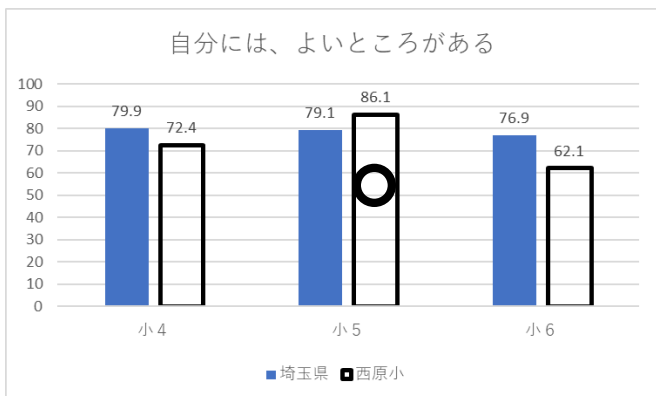
児童が質問紙で「よくできる」「できる」と回答した割合(%)



規律ある態度については、「丁寧な言葉づかい」「返事」は県や市と比べて同程度であり、よくできています。特にあいさつはどの学年でも市や県を上回っています。2学期から登校時の朝の挨拶において、班員が気持ちの良いあいさつができた班に「あいさつ認定証」を発行し、校内に掲示しています。続々と認定証が発行され、子供たちのあいさつに対する前向きな気持ちが日々着々と高まっています。今後も学校や地域そして家庭で、あいさつを大切にしていける取り組みを続けていくことで、気持ちよいあいさつにつなげていきます。

3 児童への質問紙調査結果(抜粋) 該当児童の割合(%) 埼玉県 西原小





難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している」児童は4年生では県や市を上まわっているが、学年が上がるにつれて下がる傾向がある。「将来の夢や目標を持っている」「自分にはよいところがある」では5年生は割合が高く挑戦力や将来について肯定的に捉えています。低学年の頃から異年齢交流や豊かなコミュニケーションの経験を重ね、縦割り班での6年生のリーダーとしての姿を見て育まれた結果が、高学年としての意識を高めていると考えます。また、学習面においては、「授業で学んだことを日常生活に生かせると感じたこと」「授業でよい評価をもらえると信じている」項目の割合が高いことから、日々の授業を楽しみにし、意欲的に学習している姿が見られます。5、6年生は読書習慣の未定着率割合が県平均より高いです。そこで、子供たちの読書の関心を高めるために10月を読書月間としました。図書委員会を中心として、「読書の木」に取り組みました。本を1冊読むことで学級前に掲示された読書の木に葉を1枚ずつ貼っていきます。先生や職員のおすすめの本の紹介など、学校図書支援員と連携を図りながら読書習慣の確立を目指していきます。また、家庭においても読書の啓発にご協力いただきたいです。

タブレットを使った学習に関しては、4、5年生の利用割合が高くなっています。それぞれのご家庭に合わせた家庭学習の習慣を決めるとともにゲーム機やタブレット端末、SNS等の使い方の約束に家庭学習のしおりに通して定着を図ります。

学校として家庭との連携を図りながら学力を高めていきたいと考えます。そこで「自主学習の手引き」を作成しました。各

学年ごとの学習のめやす、内容を示しています。家庭学習の習慣をつけ、学校と家庭が一体となり学力の定着を図ってきたいです。ご協力よろしくお願いします。

全国学力状況調査(6年生)について

実施日 令和5年4月18日

本調査は、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的に、文部科学省が全国の小学生を対象に実施するものです。本調査の結果は、学校における児童生徒の教育指導の充実や学習状況の改善等に役立て、課題解決に向けた取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立してまいります。

1 教科に関わる調査

国語	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
ふじみ野市立西原小学校	31	8.1 / 14	58	9.0	4.0
埼玉県(公立)	56,414	9.6 / 14	68	10.0	2.9
全国(公立)	964,177	9.4 / 14	67.2	10.0	2.9

算数	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
ふじみ野市立西原小学校	31	8.7 / 16	54	10.0	4.5
埼玉県(公立)	56,408	10.0 / 16	62	10.0	3.7
全国(公立)	964,350	10.0 / 16	62.5	11.0	3.8

国語、算数の平均正答率を全国や県と比較してみると、国語は約10%低く、算数は約8%低い正答率です。国語・算数の学習指導要領の内容・領域別の平均正答率は以下の通りです。

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)			
			西原小	埼玉県(公立)	全国(公立)	
国語			14	58	68	67.2
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	5	65.8	72.8	71.2
		(2) 情報の扱いに関する事項	2	48.4	64.4	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	63.4	73.9	72.6
		B 書くこと	1	25.8	26.1	26.7
		C 読むこと	3	54.8	72.5	71.2

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)			
			西原小	埼玉県(公立)	全国(公立)	
算数			16	54	62	62.5
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	58.1	67.1	67.3	
	B 図形	4	37.9	47.8	48.2	
	C 測定	0				
	C 変化と関係	4	63.7	71.0	70.9	
	D データの活用	3	61.3	66.3	65.5	

埼玉県や全国の平均正答率と比べてみると、本校は国語「知識及び技能」(2)情報の扱いに関する事項「思考力、判断力、表現力」のA話すこと・聞くこと C読むことの2つが課題です。算数はA数と計算、B図形の2領域が特に課題です。さらにC変化と関係 Dデータの活用でも、下回っており、国語、算数全般に課題があると言えます。

そこで算数では、低学年で基礎基本である四則演算の定着に向けて計算問題の練習を繰り返し行います。中学年から数学的な問題を解決するために必要な考え方を図や数直線を使って求めるようにします。また、学年や個々の実態に応じて、ICT 機器やタブレット端末を効果的に活用し、児童一人一人のレベルや特性に合わせた工夫を行ってまいります。国語では作文や日記などを通じて、自分の考えをまとめて文章にする取り組みを学校全体で行い、さまざまなジャンルの本を読み比べ、読んだ本の内容や感想をまとめる練習を行ってまいります。